

易老岳遭難(2013年5月)

残雪期の道迷い遭難。64歳男性が道に迷い光岳小屋に着かなかった。家族が警察に連絡し、入山後5日目に易老岳付近で無事発見された。



解説

残雪期に一人で入山。大事に至らなかったのは、主尾根の登山道から大きく離れていなかったことが大きい。もし、パニックになって沢に下ってしまうと、人里離れた深山では、発見は難しかったに違いない。

現在地が不明になった状態から、地形図の読図を頼りに脱出することは上級者にも難しい。と筆者の方は書かれている。

発見場所が易老岳周辺ということもあり、上に上にと登れば易老岳頂上に着くように思うが、単独行登山と残雪期がそのような行動をとらなかったのかもしれない。

自分だったらどうするか？常に考えて行動し、道迷い遭難事例から学んでいきたい。